

報告書抄録

ふりがな	しせきもりおかじょうあと							
書名	史跡盛岡城跡							
副書名	下曲輪土塁修復工事報告書							
編著者名	三浦陽一（盛岡市教育委員会歴史文化課）・勝部民男・田浦正広（株式会社三衡設計舎）							
編集機関	盛岡市教育委員会							
所在地	〒020-8532 岩手県盛岡市津志田14地割37番地2 電話 019-639-9067							
発行年月日	2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しせきもりおかじょうあと 史跡盛岡城跡 (第33次調査)	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 うちまる 内丸57-1ほか	03201		39° 41' 50"	141° 09' 13"	平成26年 6月16日 ～ 7月17日		現状変更 (毀損 復旧)
				世界測地系 39° 42' 01"	世界測地系 141° 09' 74"			
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
盛岡城跡 第33次調査	近世城郭	近世		土塁		近・現代陶磁器ほか		調査後土塁修復工事及び鐘楼修復工事を実施した。
要約	<p>盛岡城跡は、南部信直の手により慶長年間に築城が開始され、寛永10年（1633）に南部重直が居城と定めて以来、明治維新まで盛岡藩南部氏の居城として機能した。城郭の基本構成は、内曲輪を旧北上川と中津川の合流点に突出した小丘陵に配し、内曲輪の北側を囲むように水堀と土塁を巡らせて外曲輪とし、さらに外側に水堀と土塁を巡らせ遠曲輪とする「梯郭式」の縄張を呈している。河川と堀・土塁に囲まれた内曲輪は、本丸、二ノ丸、三ノ丸が段下がりにつながる連郭式の縄張となっており、各曲輪に石垣が構築されている。</p> <p>今回の調査により、下曲輪に残存する土塁のうち鐘楼が建築された基壇状地形部分については、明治期に大規模な土砂の入れ替えと基礎工事がおこなわれていたことが確認された。</p>							